



1

放射線に関するコラム



「原発事故から10年」



広野町放射線健康対策委員会 委員長
量子科学技術研究開発機構 熊谷 敦史

原発事故から10年を迎え、放射線健康対策委員会では答申を準備しているところです。そこでは、町の方々の暮らしにおける様々な放射線健康リスクについて分析しています。町的生活環境の測定は、除染によって大幅な線量の低下を確認したのちも、継続して行われてきました。外部被ばく、内部被ばくについて、ご希望に応じて実際に測ることができる仕組みが引き続き維持されてきました。

これまでの各種の検査から、現在に至るまでの傾向がわかるようになりました。

- 推定される年間外部被ばく線量は年々低下傾向。
- 山菜・野生のキノコ、川魚等では放射性セシウムが検出されることが珍しくなく、基準値を超えるものも散見される。一方、野菜からは検出されることすらまれ。
- 最近、放射性セシウムによる内部被ばくが検出される例はなくなっている。
- 生活環境の線量については、除染によって大幅に低減。

私としては、町で暮らすうえでの放射線の健康リスクは、健康に影響を及ぼすレベルではないと考えます。皆様のご協力により、安全性確認について実際のデータに基づく判断が可能となりました。信頼できるデータを蓄積していくことは、実は容易ではありません。

次ページに続きます

食品検査一つをとってみても、測定の計画や実際の測定にあたった方々はもちろん、おのこのサンプルの測定に足を運んでいただいた方々、皆さんの一つ一つの積み重ねのたまものにほかなりません。「検出されたらどうしよう」、「少ないから問題ないと言われたけれど大丈夫?」、あるいは基準値を超えた場合の「検査せずに食べたものはどうだったろう」、検査のたびに交錯したであろう様々な思いに委員それぞれが思いを致しつつデータを拝見してきたつもりではありますが、果たしてそれぞれの思いに、必要なときに必要な対応ができているかどうか、それは今後も常に見直しが必要になるでしょう。

十年一昔と言いますし、震災を経験していない世代が小学生の多くを占めるようになってきたことは事実です。しかし、福島に暮らし、暮らしてきた私たちにとっては、決して時間の流れは均一ではなく、外の世界と同じでもありません。福島の自然を愛する者にとって、母なる大地の安全性すら絶えず再確認し続けねばならない緊張感は続きます。あの時や、その後の大きな変化の中にずっと身を置いている感覚もまた確かにあります。

一方、種々の情報の中で捉えにくい放射線健康リスクと向き合い、複合的なリスク判断のもとに、できることを模索して今日まで生活を再建されてきた経験は、原発事故によって得られた数少ないプラスの側面と言えるでしょう。はからずも原発事故 10 年目に私たちが直面している新型コロナウイルス感染症への向き合い方にも生かせるのではないかと思います。マスクや消毒薬の次にはワクチンが届かないという先行き不透明な状況で、日本中が容赦なくセンセーショナルな情報の嵐にさらされ、正確で意味のある情報を見出し理解することが難しいだけでなく、現実社会の中でどう対処すべきか、極めて難しい判断を私たちに迫っています。原発事故後の 10 年の間、私たちの心を痛めつけ、社会をも分断する放射線という難題に正面から向き合ってきた広野町にはこの難局を乗り越える地力が培われてきたといえるのではないのでしょうか。広野町こそが、鍛えられた情報リテラシー、ヘルスリテラシーともいわれる力を十二分に発揮してしなやかに対応している姿を、日本そして世界に見せて行けるものと私は信じています。



2

食品のモニタリング結果総括表

(令和3年2月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	3	3	0	
根菜・芋類	-	-	-	
山菜・きのこ	-	-	-	
果物	-	-	-	
穀類・種実類	-	-	-	
魚介類	-	-	-	
加工食品	-	-	-	
飲料水	-	-	-	
その他(肉類など)	-	-	-	
総検査数	3	3	0	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	公民館1階 放射能簡易分析センター
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30分まで

3

広野町各地区の放射線量

令和3年3月15日13時30分現在(天候:晴)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)	測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)
広野小学校	0.08	広野町役場	0.09
広野中学校	0.08	高速バス利用者駐車場	0.16
広洋台地区集会所	0.09	上田郷橋付近 ^{注1}	0.10
ニツ沼公園 ^{注2}	0.08	北沢複合交差点	0.13
長畑地区集会所	調整中	県道広野～小高線沿	0.14
小滝平浄水場 ^{注2}	0.07	仮置場	0.11

注1 平成29年3月設置

注2 ニツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではn Gy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線相談室の活動について

町民が安全・安心の確信のもと広野町へ帰還し生活を実現していくために、平成 26 年 11 月に、「広野町放射線相談室」が設置され今年 7 年目を迎えようとしております。

今年度の放射線相談室の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、町民参加の施設見学や児童の放射線教育等の活動を自粛し、思っていた以上に活動が出来ませんでした。

相談室の活動には、相談会・研修会・勉強会・施設見学会等を行って来ました。さらに、放射線に対する正確な情報提供を「相談室だより」として発信しております。

平成 30 年度以降は、表だって相談に来られる方はいませんが、町民の不安解消に努めてまいります。放射線に関する相談等の要望がありましたら、放射線相談室までお問い合わせ下さい。

《お問い合わせ先》

広野町役場健康福祉課 放射線健康相談係

電話：0240-27-2113

メール：hirono-housou01a@town.hirono.fukushima.jp

